

東日本大震災 7 周年シンポジウム「地域社会に開かれた災害研を目指して—地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装—」を開催しました(2018/3/11)

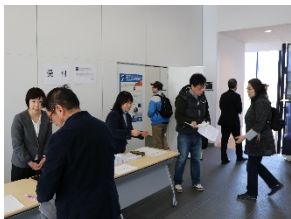
テーマ：東日本大震災、地域ニーズ、社会実装、7 周年
場所：災害科学国際研究所多目的ホール

3 月 11 日（日）、災害科学国際研究所多目的ホールにおいて、災害科学国際研究所主催の東日本大震災 7 周年シンポジウム「地域社会に開かれた災害研を目指して—地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装—」を開催しました。当日は、横浜サイエンスフロンティア高校の高校生約 20 名を含み、135 名の出席者となりました。

今回のシンポジウムでは、第 1 部として、河北新報社の武田真一防災・教育室長より、「被災地に求められる震災伝承と防災発信、研究の方向性～災害研との関わりの中から見えてきたこと～」と題した招待講演が行われました。特に、所外・学外の関係者のヒアリングに基づいた災害研に対する「プラスの評価」と「マイナス評価」の報告があり、一定の評価がある一方で社会からの期待の大きさを再確認することになりました。

第 2 部では、災害研の若手研究者 4 名による研究発表があり、来場者との間での質疑応答も行われ、最新の研究成果の社会発信ができました。

第 3 部のパネルディスカッションでは、さまざまな分野のパネリストから震災復興に関する地域ニーズについてご発表頂き、被災地の「いま」を共有するとともに、被災地において残された課題や新しい課題の解決に向けた災害研の役割や期待について、丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門、総合減災プロジェクトエリア）がコーディネータとなって議論が展開されました。被災地をはじめとした地域に根差した実践的研究・復興支援の今後の展開と、世界への発信について、所員全員が多くのことを考える貴重な機会となりました。



受付風景



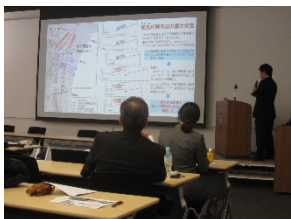
今村文彦所長の挨拶



武田真一氏による講演



シンポジウム会場



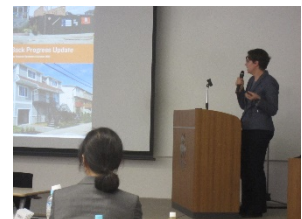
岡田真介助教



佐藤翔輔准教授



佐々木宏之助教



マリ エリザベス助教



パネルディスカッションの様子

文責：佐藤健（情報管理・社会連携部門）
（次ページへつづく）



シンポジウム会場



国際復興支援プラットフォーム等の展示物



伊藤副所長の挨拶



東日本大震災 7 周年シンポジウム

地域社会に開かれた災害研を目指して

—地域ニーズに基づいた実践的研究の蓄積・展開・社会実装—

主催：東北大学災害科学国際研究所

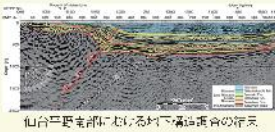
入場無料
要事前申込

13:00- 開会挨拶
今村文彦(災害科学国際研究所 所長)

13:10- 【第1部】招待講演
「被災地に求められる震災伝承と防災発信、研究の方向性
～災害研との関わりの中から見えてきたこと～」
武田 真一(河北新報社 防災・教育室 室長)



2018年3月11日(日)
13:00～17:00 (受付12:30～)
会場：東北大学災害科学国際研究所



仙台平野南部における地下構造調査の結果

14:10- 【第2部】災害研若手研究者による実践的防災学の最新の成果報告

「内陸直下型の地震を引き起こす活断層とその地下構造
～仙台平野南部において新たに明らかになった伏在活断層～」

岡田 真介(ハザード評価プロジェクトユニット 助教)

「震災伝承の実践的防災学：科学的検証と実践支援」

佐藤 翔輔(被害予測と軽減プロジェクトユニット 准教授)

< 黙 禱 >

「より迅速に、確実に災害時の「健康」と向き合うために
—東北大学病院BCP策定へのステップ—」

佐々木 宏之(災害と健康プロジェクトユニット 助教)

「人間中心の住宅復興に必要なこと：日本とアメリカの住宅復興事例から」

マリエリザベス(減災・復興デザインプロジェクトユニット 助教)

三陸地心連動性調査
(宮代村・大川原地区)



東北大学病院防災訓練

【第3部】パネルディスカッション

15:20- 「震災復興のこれまでと災害研のこれからに期待すること」

コーディネータ 大谷 浩明(災害科学国際研究所 所長補佐、総合減災プロジェクトエリア長)

パネリスト 三宅 諭(岩手大学 農学部 准教授)

菅 徹(株式会社キャッマン大船渡 取締役)

阿部 紀代子(彫刻家 八幡家 女将)

武田 真一(河北新報社 防災・教育室 室長)

越智 小枝(東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 講師)



ハルケーン・ソシア後の住宅復興
(ニューヨーク市)



「心の素き元気いちば」のホムヘビ ジョムリ

16:50- 閉会挨拶
伊藤 潔(災害科学国際研究所 副研究所長)

聯合司会：中鉢 奈津子(災害科学国際研究所 広報室 特任助教)



地下鉄東西線!青葉山駅南出口から徒歩5分



参加ご希望の方は、電話・メール・FAX・葉書のいずれかで、7周年シンポジウム参加申込・お名前(ふりがな)・ご所属・ご連絡先電話番号をお書きのうえ、お申しください。
申込先：〒980-8572 東北大学 災害科学国際研究所 広報室 (月～金 9:30～16:30)
メール：sympo2018@irides.tohoku.ac.jp 電話：022-752-2049 ファックス：022-752-2105

